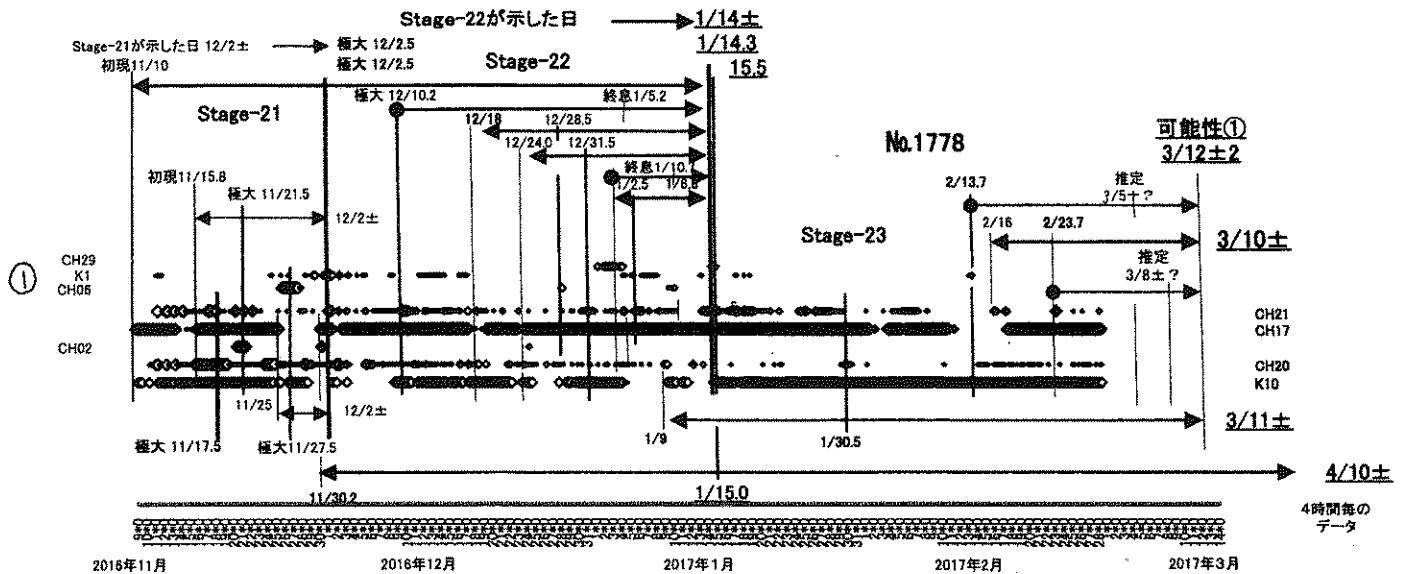


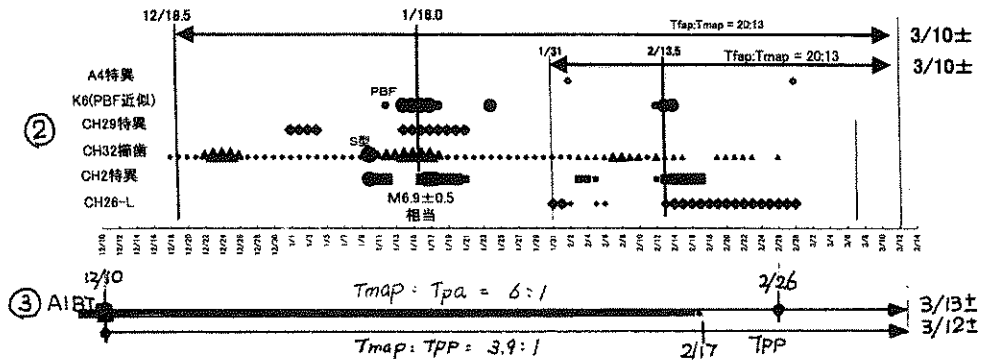
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続前兆続報 3/8±迄前兆継続? 3/12±可能性否定困難



- ①=No1778地震前兆
 - ②=K6-PBF・CH32樫歯前兆
火山帯近傍地殻地震前兆
 - ③=A1BT 火山帯近傍地殻
地震前兆の可能性
- ※①②③共に同一活動の別
形態前兆の可能性と認識中



No.1778長期継続特殊前兆
の続報です。現在の第23ス
テージ前兆群を改めて見ますと1/30.5ピーク他として、K1特異出現の2/13.7
とCH21特異が強く出現した2/23.7がピークである可能性が示唆されます。

上図②にも2/13.5にピーク認識ができ、No.1778前兆の2/13.7ピークと同じ時
期であること、No.1778前兆のCH20特異が2/13以降継続出現していること等から
2/13ピーク認識は正しい可能性有。CH21顕著化の2/23ピークは不確かですが、
CH17系状特異の出現状況を見ますと、2/23ピークは否定できません。

③に示したA1BTは昨年 12/10に極大認識できますが、2/17に終息致しました。
12/10 極大と2/17静穏化からは3/12±が示されます。さらに終息していたA1BT
が2/26に短時間再出現が観測されました。これを直前特異と認識しますと、3/13
±を示すこととなります。

参考ですが、②のK6-PBF近似前兆+CH32樫歯地殻地震前兆他の前兆群は1/16
極大認識です。No.1778地震前兆の1/15極大認識と非常に近似しています。また
③のA1BT火山帯近傍地殻地震前兆+CH26BT特異は2016年12/10 極大認識ですが、
No.1778前兆の第22ステージ中の12/10 に極大認識でき、同一時期です。

上図の①～③が全て同一活動
『活動度に関係なく、ある程度火山に近い領域の震源が浅い地殻地震の可能性』
である認識が正しい場合、現状可能性が考え易い時期として、3月12日±2
を示す可能性が示唆されます。仮にこの認識が正しい場合は、下の1)2)の前兆
終息が確認されるは
ずです。これが確認 1)①No.1778のCH17,20,K1等= 3/8±に前兆終息の可能性
されるか観測を続け 2)②のCH26-L型前兆= 3/5±に前兆終息の可能性
続報予定です。

- ◆推定領域: 下図点線領域内=大枠推定領域
太線領域内=可能性考え易い
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
(前兆評価誤認の場合でも最低M6.9 ± 0.5)
- ◆推定時期: 前兆完全終息後に推定予定
可能性① 3/8±前兆終息の場合=3/12±2
可能性② 3/11 時点で前兆継続=その後を
観測して続報で報告予定

